

シニア・ストラテジスト  
山本 雅文

マネックス証券株式会社  
www.monex.co.jp

## 賃金低迷のボディーブロー

### <ポイント>

- ◆昨日は、米雇用統計で非農業部門雇用者数が+22.3 万人と市場予想を若干下回り、過去計数も合計 6.0 万人分下方修正され、更に平均時給が前年比+2.0%と市場予想を大幅に下回ったことを受けて、発表後にドルが米中長期債利回りの大幅低下と共に全面安となった。もともと、発表前に好結果を見越してドルが上昇していたことから、前日比では概ね同水準への下落に留まっている。
- ◆ドル/円も、米雇用統計発表に向けて 123 円台前半から 123.85 円へ上昇した後、発表後に 122.96 円へ急反落、引けにかけては 123 円台を回復している。
- ◆本日は豪小売売上高、中国 HSBC サービス業 PMI、トルコ CPI、英サービス業 PMI などの発表が予定されているが、米雇用統計発表という目先の一大イベントを通過し、かつ週末 5 日のギリシャ国民投票を控えていることから、積極的なポジション造成が手控えられそうだ。
- ◆ドル/円も 123 円前後での小動きとなりそうだ。但し、平均時給の低迷は米国でインフレ圧力がなかなか高まらない状況を表しており、ドルの上値の重さがより強く意識されそうだ。

### 昨日までの世界:ドル青田買い、裏切りに遭う

ドル/円は、前日の米 ADP 民間雇用統計の予想比上振れを受けて、米雇用統計も良好な結果になるとの期待感が高まったことや、ギリシャ情勢に関する市場の楽観も反映して、米雇用統計発表に向けて米中長期債利回りの小幅続伸と共に 123 円台前半から 123.85 円へ上昇した。もともと、米雇用統計で非農業部門雇用者数が+22.3 万人と市場予想(+23.3 万人)を若干下回り、過去計数も合計 6.0 万人分下方修正され、更に平均時給が前年比+2.0%と市場予想(+2.3%)を大幅に下回ったことを受けて、発表後に米中長期債利回りの大幅低下と共に 122.96 円へ急反落した。但し引けにかけては 123 円台を回復、前日比で見ても発表後の下落は発表前の上昇分をほぼ帳消しにしかただけとなっている。

ユーロ/ドルは、ギリシャ問題への楽観からか、ドイツ 10 年債利回りの上昇の方が米国分よりも大きかったことを反映して、米雇用統計前にむしろ強含みで推移し、1.10ドル台半ばから 1.10ドル台後半へじり高となった。その後米雇用統計の予想比下振れを受けて 1.1121ドルへ続伸したが、引けにかけては再び 1.11ドルを割り込むなど、週末のギリシャ国民投票を控えて積極的なポジション造成が控えられたためか、非常に狭いレンジでの取引となった。

ユーロ/円は、欧州時間にかけてはドル/円とユーロ/ドルの両方が強含みとなったことから、136 円丁度近辺から 136.92 円へ強含みとなった。もともと、米雇用統計発表後は主にドル/円と共に 136 円台半ばへ反落した。

豪ドル/米ドルも、米雇用統計発表前の米ドル高傾向の中で 0.76ドル台半ばから一時 0.7590ドルと 4

月の安値である 0.7533 ドルに接近した。もっとも、米雇用統計発表後は 0.76 ドル台半ばへ反発、前日終値の水準をほぼ回復している。

豪ドル/円は、豪ドル/米ドルの影響をより強く受けた動きとなり、米雇用統計発表に向けて 94 円台前半から 93.64 円へ下落したが、引けにかけては 94 円丁度近辺へ反発して引けている。

### きょうの高慢な偏見：賃金低迷のボディーブロー

[今週の見通しはこちら\(6月26日付FX戦略ウィークリー\)](#)

[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

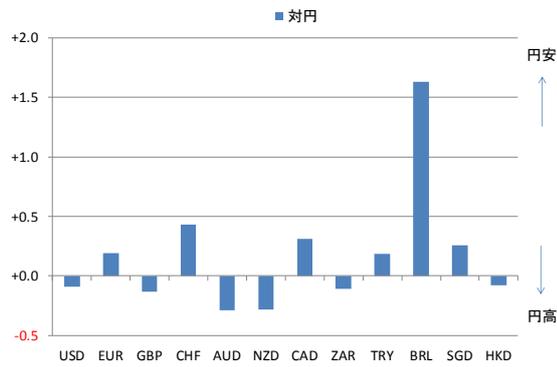
ドル/円は、米雇用統計発表という目先の一大イベントを通過し、かつ週末 5 日のギリシャ国民投票を控えていることから、積極的なポジション造成が手控えられそうで、ドル/円も 123 円前後での小動きとなりそうだ。但し、月次の振れが大きい雇用者数の小幅下振れはともかく、平均時給の伸びの低迷はコア PCE デフレーターの低調とも整合的で、全体として米国でインフレ圧力がなかなか高まらない状況を表しており、目先利上げ早期化・急ピッチ化への期待が高まりにくくドルの上値の重さがより強く意識されそうだ。6月5日に 125.86 円の高値をつけて以降、上値と下値が共に切り下がる下降チャネル入りしており、地合いが着実に悪化している点も気になる。

ユーロ/ドルは、ギリシャ国民投票を控えて、最新の世論調査結果やギリシャ高官から妥協姿勢あるいは強硬姿勢が示されるようだと上下に振れる可能性はあるが、前日同様に積極的なポジション造成が手控えられそうだ。

豪ドル/米ドルも小動きとなりそうだが、安値圏で推移していることから、豪小売売上高が予想比下振れとなったり(市場予想は前月比+0.5%)、ギリシャ国民投票前に楽観論が高まり米中長期債利回りが上昇するようだと、直近安値である 0.7533 ドル下抜けを試す展開となりそうだ。

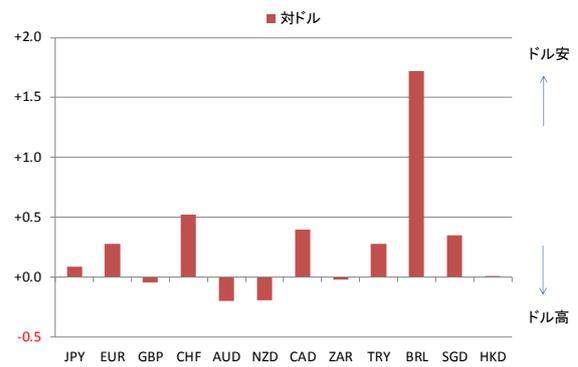
ポンド関連では英サービス業 PMI が注目される。今週発表の英経済指標はまちまちだったが、1 日発表の製造業 PMI の悪化・予想比下振れを受けたポンド安が大きかった。昨日発表の英建設業 PMI は 58.1 と前月および市場予想を上回ったにも拘らずポンドは上昇しなかったが、本日のサービス業 PMI も予想比上振れとなれば、ポンドは反発に向かう可能性が高い。前月の 56.5 に対して市場では 57.5 への改善が予想されている。

主要通貨の対円相場(前日比%)



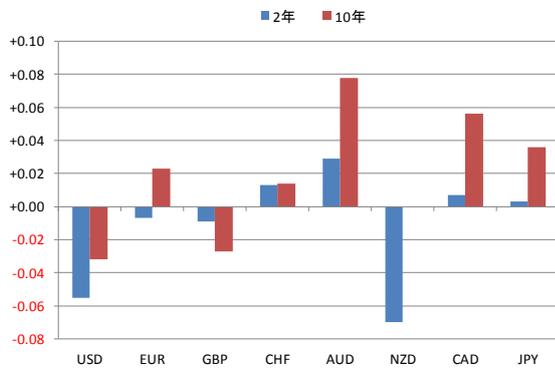
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



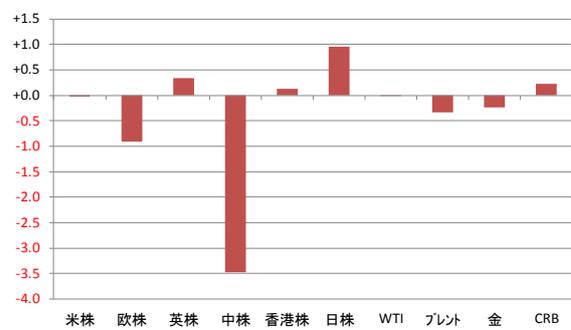
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

**利益相反に関する開示事項**

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会